

平成29年度 授業改善推進プラン 調布市立(多摩川) 小学校

【「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】

- 基礎的・基本的な学習内容の一層の定着を図る。
 - ・「算数」では習熟度別指導を行い、児童の実態に応じた指導を実施する。
 - ・保護者・児童による授業評価と教員相互の参観を実施し、授業改善を図る。
 - ・東京ベーシックドリルを朝の時間や授業、家庭と連携して活用するなど、繰り返し学習を取り入れ、基礎的・基本的な内容の定着を図る。
 - ・長期休業日や放課後等を活用したり、家庭と連携したりして、補充的学習の機会を確保する。
- 「聞く」指導の徹底を図り、各教科において言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成する。
 - ・「多摩川スタンダード」学習規律の徹底を図り、学習規律の定着を図る。
 - ・自力解決する時間を確保して自分の考えをしっかりと持たせたと上で、ペアや小グループ、全体での話し合い活動を段階的に取り入れ、自分の考えを分かりやすく伝えたり、友達の考えと比べたり、深めたりするための授業改善を推進する。
 - ・自ら課題を発見、追究、解決する授業を創造し、実践し、課題解決力を育成する。
 - ・習得した知識・技術を活用し、能動的・協動的な学習活動を充実させ、見方や考え方を育む。

【平成29年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】

関心・意欲・態度は比較的高い。しかし、興味の方向が本来の学習で押さえるべき方向と異なっているため、物事の背景や事象の理由を正しく理解・解釈し、考えるに至らない傾向がある。また、深く考える機会や知識を活用・応用する場面が少ないこと、必要な情報を取り出し解決しようとする力が欠けているため、どの教科でも発展的な問題を解くための学力が低くなっている。数学的思考力や書く力については都平均正答率を上回っているものの、知識・理解については各教科共に都平均正答率を下回っている。また、正答率分布A層の減少、C、D層の増加傾向にあることから、補充的学習の一層の推進が求められる。

○教科の内容について

- ・基礎基本的学習内容の定着が十分でないこと、語彙力の不足から、問われていることや文意等を正確に理解することができない。

○読み解く力について

- ・上記理由により、文章を正しく理解できず考えたり推論したりするので、問題を的確に解決する力が不足している。

【授業改善の方針・目標】

学力調査と普段の学習の様子から、次の4点について改善点・工夫点を出し、全校で取り組む。

- ①学習規律の改善、意識向上を図る。
- ②繰り返し練習し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。
- ③正確に読み取り、根拠をもって考え、活用する力を高める。
- ④各教科における言語活動の充実を図る。

【授業改善のための具体的な取組】

1 教育課程編成上の工夫

- (1)挨拶で始め、挨拶で終わり、「5分の重み」を考慮して、始業・終業の時刻を厳守することに努める。「多摩川スタンダード(5つの授業規律)」にある、話の聞き方、発言の仕方、姿勢を徹底して習慣化させる。
- (2)授業の中で東京ベーシックドリルなどを活用した5分間の習熟の時間や診断テストの結果を受けて夏休み中に家庭学習を設定するなどの取り組みを実践する。
- (3)習熟度別指導を算数で4年生は2クラスずつを3つのレベルに分け、3年生、5年生、6年生においては4つのレベルに分けて、週5時間実施する。東京ベーシックドリルを活用し、繰り返し練習し、基礎的・基本的な学習内容の定着を図る。また、個別指導にあたっては、レディネステストの活用、補充的・発展的指導等の工夫を行い、理解を高め、数的な思考力を伸ばす。(調布ベーシックプランより)
- (4)全教育活動を通して、全校の取り組みとして「聞き取る力」「読み取る力」「読み解く力」の育成を図る。
- (5) * ステップアップタイム → 月3回 副教材を使った学習(おさらいたしかめ)
 - 月1回 音読(伝統的な言語文化に触れる時間として位置付ける。継続した音読指導を行う。)
- * 読書タイム → 週2回 毎週木・金曜日に朝読書の時間を設定し、継続した読書指導を全校で行っていく。
- (6)全教育活動・全教科・領域の学習を通して、表現力(特に、根拠を明らかにして説明する学習活動の充実)を重視した取り組みを工夫し、実践する。
- (7)ユニバーサルデザインの視点を取り入れた分かりやすい授業の工夫を行う。(視覚化、構造化、協働化、評価の工夫など)
- (8)児童が主体的・対話的に学ぶ学習活動の工夫を行う。(ペア、グループワークなど)
- (9)道徳の時間を中心に各教科においても「心を豊かにする」学習内容を設定し、全校で取り組む。
- (10)保護者による読み聞かせや読書旬間の設定、週に2回の朝読書を通して、読書の習慣化を図り、「読む力」「語彙力」を伸ばす。

2 校内における研究・研修の工夫

- (1)今年度の研究テーマを「豊かな心をもつ児童の育成～広く、深く考える道徳授業を目指して～」と設定し、児童に自己肯定感アンケートと道徳アンケートをとり、その結果を活用しながら、クラス毎の児童の実態に応じた指導方法を工夫していく。
- (2)広く、深く考える道徳授業のための4つのステップや効果的な板書の工夫、自己肯定感を高めるための全校共通の取り組みや家庭と連携した取り組みを進めながら、PDCAサイクルにのせた授業改善と評価等を行っていく。
- (3)生活指導とも連携を取りながら、思いやりの心を育てる指導の徹底を図る。
- (4)1年生は学習した道徳の話を家庭で読んだ後に感想を書いてもらったり、2年生から4年生は学習したワークシートを持ち帰り、保護者からコメントを書いてもらったりし、家庭と連携して、道徳について考える取り組みを行っている。

【取組の進行・管理、評価方法、時期】

- 指導と評価の一体化を図るため、単元ごとの評価規準を十分に活用し、客観的で合理性のある評価方法を工夫し、観点別評価に結び付く補助資料を作成する。
- 個々の児童の習熟の程度に応じて学習形態や指導法、教材の工夫を行う。
- 日常及び自己申告授業観察時には面接時に授業改善に向けた指導助言を行う。
- 2学期末及び3学期末に、前後期学校評価実施とも合わせ、運営委員会を評価委員会として開く。取り組みの進捗状況を報告し、全校での取り組みの効果等についても話し合い、評価・見直しを行う。